

「新しい一年を支える御言葉」

詩篇119篇105節

堀田修一 22・1・2

I 「あなたのみことばは、私の足のともしび私の道の光です」：105。この新しい年の一日一日は、偶然や神と関係なく訪れるのものではない。毎日毎日が、神のみことばの光によって導かれる。私達は、北海道で、数年前に、光が無くなる停電、ブラックアウトを経験した。その時、人生を照らす光の大切さを痛感した。私達は幸いである。神のみことばの光により、今年、どのような暗い悩みの時にも、神は、進むべき道を照らし導き、生きる希望の光を与えて下さる。感謝します！

「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。…主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は」イザヤ30：15、18。

「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである」Iコリント2：9

「私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに超えて行うことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにあって、栄光が、世々限りなく、とこしえまでもありますように。アーメン」エペソ3：20、21

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける」イザヤ43：19。神は常に新しい事をされる。今年も。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なる」イザヤ55：8

「わたしはあなたがたのために立てている計画を良く知っているからだ。—主の御告げ—それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」エレミヤ29：11

II あわてず、あせらず、あきらめないで祈る。待つ時と踏み出すべき時がある。

「熱心だけで知識のないのはよくない。急ぎ足の者はつまずく」箴言19：2

「主が来られるまでは、先走ったさばきをしてはいけません」Iコリント4：5

今年も、色々な事が起こる事でしょう。色々な事が自分に起こって来る度に、神のみもとに、それを持って行く事を学ばなければならない。神よりも先走ろうとしてはならない。あわて、あせり、神の先を越してはならない。神から目を離し、神抜きで、自分だけで将来を先走って考え込んではいけません。一日一日を神と共に生きよう。来る日毎に、神にお従いする歩みをしよう。神が、その日その日にするように命じられる事を判断して歩めるように祈りたい。今年、一日一日、一つ一つの問題に、神に祈りつつ対処する事を学べますように。神の先を走るのではなく、神と歩調を合わせ、神と共に歩めますように。その為には、毎日、神の御言葉を読み味わい、神との交わりが欠かせない。また毎週の主日、安息日の礼拝を大切にし、神を賛美し、

礼拝メッセージで神の御心を知り続けたい。また主を中心とした交わり、祈り合いを大切にしたい。

Ⅲ 試練の中での励ましの御言葉

「あなたがたの会った試練は人（人となられ苦しみを味わわれた主も、試練を通った信仰の先輩たちも）の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」Ⅰコリント10：13。

究極の脱出の道とは、全能の主が共にいて下さる道、主が支えて下さる道。試練だけが与えられる事はない。試練と共に主の恵み、主の励まし、主の慰めがあり、試練と共に最高の、素晴らしい主が共におられる。

Ⅳ 力強い御言葉

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろくな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義（勝利、救いとも訳せる）の右（権威、威力※イエスは「十字架を忍び神の御座の右（権威ある座）に着座されました」ヘブル12：2）の手で、あなたを守る」イザヤ41：10。

Ⅴ 苦しみ、試練をも益として下さる神

今年、私達の身に何が起ころうとも、偶然に意味なく起こる事は何もない。偉大な神は、全世界を、私達の人生を支配されている。人の頭では理解できなくても、神の意味、ご計画がある。その神を信頼する時、平安が与えられる。すべてに神のご支配がある。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。

「神を愛する人々、すなわち、神の御計画に従って召された人々のためには、神がすべてのこと（苦しみや試練や失敗を含む）を働かせて益（霊的な目が覚まされる、悔い改め、神に立ち返る、へりくだり、神に近づく、神を深く知る、神の聖さ、主の品性に変えられる、人への深い思いやり、神のご計画の前進）としてくださることを、私たちは知っています」ローマ8：28

「いつも（主ご自身を、主の恵みを）喜んでいなさい。絶えず祈りなさい（恵みとまことに満ちた神と交わりなさい）。すべてのことにおいて（神の恵みを）感謝しなさい」Ⅰテサロニケ5：16-18。

※証し

Ⅵ 悩みから主に心を向けさせる御言葉。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました」ヘブル12：2。自分と人と悩み事から目を離し、すべてを支配しておられる主に信仰の目を向けよう。そして、主の視点で、自分と人と悩み事を見よう。見方、考え方、捉え方が変わる。「心（原語：思い、考え方）を新たにする（御聖霊により思い、考え方を新しくしていただく）ことで、自分（自分の心・視点・物事の捉え方）を変えていただきなさい」ローマ12：2

Ⅶ 聖書の初めと最後の御言葉の意味と励まし

1. 聖書の初めのみことば「はじめに神が天と地を創造された」創世記1：1。はじめに神は、恵みで、天と地（すべての被造物、人間も）を創造された。その後、人の罪（神との分断）・人の罪の償いの為の主のクリスマスと十字架（神との和解）・主の復活（新しい命）・世の終わり（地震、疫病、迫害＝人類への悔い改めの警告、福音を信じて救われるのを待っておられる）と新天新地の産みの苦しき）・主の再臨（新天新地の新創造）「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由（主の再臨による救いの完成）にあずかります。…被造物のすべては、今に至るまで、ともに産みの苦しき（主の再臨による新天新地が産まれる希望の苦しきをしています）」ローマ8：21，22
2. 聖書の最後の黙示録のみことば「主イエスの恵みが、すべての者（原語：すべてのもの＝人間だけではなく、すべての被造物の意）とともにありますように」黙示録22：21。聖書の最後の黙示録の御言葉だけが、すべての者ではなく、人を含むすべての被造物への恵みが記されている。これこそ、初めに天と地を創造された神（創世記1：1）の恵みの究極的なゴール！黙示録は神の恵みが全世界にあるようにとの祈りの書。今年も、この神の壮大な勝利の恵みを見つめつつ、希望を持って歩みましょう。